

シャルルヴィル・メジエール市長表敬訪問

2019年9月26日午前10時から午後9時30分

《今日の予定》

- 1、メジエール市庁舎、ボリス・ラビニヨン市長表敬訪問。
- 2、ノートルダム小学校訪問・交流。
- 3、“飯田通り”見学及びフォンテンヌ中学校生徒との交流。
- 4、姉妹都市委員会役員との交流。
- 5、SVM市内観光。
- 6、シャルル市庁舎（合同庁舎）での「日本の間」開所式。

【2019/09/26】

《メジエール市庁舎、ボリス・ラビニヨン市長表敬訪問》

- 1、9:50頃、市長舎に入る。市長舎は石作りの一部5階の4階建て。二階からはフランスの国旗が何本も掲げられている。
グレゴリーさんの案内で市庁舎前にバスを駐車させる。
石畳の階段を二階に上がる。
招き入れられた2階は天井が高い。細長くテーブルが並べられており軽食が出来る様に準備されていた。
- 2、グレゴリーさんの顔も見える。教育長始め市の関係者もいる。軽く挨拶する。
しばらくすると、女性が出てきて通訳のヴィアンソン藤井（女性で昨年の8月9日に通訳をされた方で、今回牧野市長の専属通訳として来ている。）さんが、ラビニヨン市長は急用の公務が出来、留守の旨、副市長（日本の特別職と違い、シャルルヴィル・メジエール市の副市長は7名か8名いて、議員がなっている。）が対応するとの事。
女性副市長（アルメルさん）から挨拶を受ける。
（挨拶の内容は、小川さんの立派な訪問記録が有り。そちらを見て頂く。）
歓待をしていただける。副市長のほか女性スタッフ2名が対応してくれる。
団長として私は次のような挨拶をした。
通訳はヴィアンソン藤井さんにしていただく。
- 3、「1、本日、アルメル副市長様には大変お忙しき所にもかかわらず、私ども訪問団に、この様な貴重な時間を割いていただきました事に感謝申し上げます。
2、私どもは9月24日に日本をたちまして、24日の夕方パリにつき、昨

日はベルギーに行って参りました。昨夕セダン市のホテルに入り、本日シャルルヴィル・メジエール市に到着した所です。

3、私達、訪問団 15 名は、昨年 8 月 9 日、ラビニヨン市長ご夫妻様が飯田市龍江にお越しいただき、“シャルルヴィル・メジエール通り”命名式、並びに“今田人形館での龍江地区住民との交流会”にも参加頂き、心に残る交流会が出来ました事に、御礼と感謝を申し上げるべく訪問させていただいた所です。

4、また、本日は“飯田通り見学”“ノートルダム小学校の生徒さんとの交流”“姉妹都市委員会の皆さんとの交流“など、多くの市民の皆さんとの交流を通じて、シャルルヴィル・メジエール市との友好が深まり、両市が更に強い絆で結ばれる事を願っております。

5、私共一行は、本日一日何かとお世話様になりますが、どうぞ宜しくお願い致します。

6、結びに、アルメル副市長様のご健勝・ご多幸をお祈りすると共に、シャルルヴィル・メジエール市の益々の発展を祈念しまして、私からのご挨拶といたします。

7、本日は大変有難うございました。」

以上が挨拶。

4、挨拶後、軽い食事をし、副市長さんを交えて歓談する。

清水正明さんからお借りした今年の 8 月 9 日の写真を見ながら、当時の暑い 1 日や出来事を話題にした。

清水さんのお陰で話題の提供が出来、副市長を始め市の職員の皆さんにも楽しんでいただいた。

写真は大変ありがたかった。

〈ノートルダム小学校訪問・交流〉

5、表敬訪問が終わると、グレゴリーさんの案内でノートルダム小学校へ向かう。

メジエール庁舎から徒歩で 5 分ほどの距離。

ノートルダム小学校は私立の小学校、レリトーさんのお話によると私立の学校は 4 校から 5 校あり・公立は 26 校から 27 校あるとのお話。

また、私立の小学校はお金も高く、白人が多いそうだ。公立は黒人もいるとのこと。

6、グレゴリーさんの案内で校舎に入る。日本の学校の様に校門はない。

人家に入るように扉を開けて入る。

入ると直ぐ校長先生が見える。

応接室がないので（あったかもしれないがその時はその場所に通されなか

った。)

直ぐお土産として持ってきた「龍江のハッピー」を贈呈。

校長先生はそのハッピーを出して着用。とても素晴らしいと言って大変喜んでくれる。大変満足そう。

校長先生は女性の先生。ここでは女性の先生が多いとのこと。

- 7、教室へ入ると子供達が後ろを振り返る。慣れないフランス語で“ボンジュール”と我々は挨拶をして教室に入る。

1クラス 25 人前後のクラス編成となっている。

表情は日本の子供達と同じ。あどけない。

教室は狭いせいなのか、鞆は廊下に置いてある。

私立なのか小学生の子供より小さい子供さんのクラスが有る。私立なので保育園の子供達もいるのか、いや、小学校 1 年生のクラスの様だ。

- 8、フランスの教育制度は、小学校は 5 年間、中学校は 4 年間、高校は 3 年間で。

入学は 6 歳から。6 歳から 16 歳まで義務教育となっている。

私達訪問団は各クラスを見て回る。

- 9、最後に訪れたのは、4 年生のクラス。生徒数は丁度 30 人。比較的大きな教室。担任の先生は女性。

中に入ると教室には日本に関する本が並べられていた。

私達は、ここで龍江小学校の生徒から預かったメッセージをまず贈呈。

今田人形の風呂敷贈呈。

また、龍江の子供達が折った沢山の“折り紙”を 3 袋贈呈。校長先生のメッセージ。飯田りんご DVD。

シャルルヴィル・メジエール命名式・交流会の DVD。

桜街道の写真・龍江小学校の全景写真・今田人形の練習風景写真等。

学校要覧。桜街道パンフ。龍江パンフ。飯田市パンフ。等を贈呈した。

- 10、レリトーさんが黒板に日本の地図と飯田市は丁度へソの部分と説明。

まさに的を得た説明。子供達は聞き入る。

レリトーさんは漢字とカタカナ、ひらがなで飯田と書く。

日本の漢字文化、ひらがな文化を紹介。

- 11、私にも質問、「制服は有るのか」など。

それに真摯に応える。

丁度、おなじ教室に代田教育長も同席しており。教育長から幾つかの質問がなされる。その模様を南信州新聞の「シャルルヴィル・メジエール通信」から引用すると「教室で、【どんな教科が好きか】と聞くと、一番多かったのは算数。その次は国語。元気に手をあげ、大きな声でその理由を話してくれました。」「最後に 4 年生のクラス全員で、アルチュール・ランボーの

詩を朗読してくれました。」

また、「愛」と書かれた色紙も準備されていて子供たちにプレゼントされ、粋な計らいがなされた。

さすが、代田教育長。

- 12、子供達の元気の良い授業を見終わると、私達はその教室を後にした。

帰りがけ4年生から龍江の子供たちにと、「絵」や「先生からのメッセージ」「パンフ」等を頂いた。

(龍江小学校の皆さんには様子を伝え届けます。)

- 13、私達が出口に向かうと、父兄の皆さんが子供達を迎えに来ておりもう子供達の帰る時間となっていた。

外に出ると、小雨が降っていた。

《昼食》

- 1、徒歩で庁舎前に止めているバスまで帰る。

バスでデュカール広場近くの昼食会場のデイナーサロン「シェ・ビアール」に向かう。

《“飯田通り”見学・フォンテンヌ中学生との交流》

- 1、14:00、バスで“飯田通り”に向かう。

“飯田通り”は、シャルルヴィル・メジュール市の中心市街地から1キロ程離れた所にある。

約600メートルくらいの通り。

いくらか小雨模様。

バスから降りると“飯田通り”の一部分を通行止めとして頂く配慮。警察官2人が警備に当たっていた。

雨を心配してテントも張られていた。牧野市長・代田教育長・市の関係の皆さん。それに我々の団体15名が加わる。

それに当地の副市長マルケ（男性）さんもいる。少し待っていると、近くのフォンテンヌ中学校の先生二人と生徒が12・13名も加わる。

フォンテンヌ中学生は演劇部の中学生との事。

- 2、初めに牧野市長の感謝のスピーチ。続いて副市長さんの挨拶が有る。

(牧野市長・SVM市副市長さんの挨拶は、小川さんの記録に詳しい)

引率してきた女性の先生に早速“龍江のハッピー”をプレゼント。

早速ハッピーを着用。大変気に入った様子。

男性のもう一人の先生に“今田人形の風呂敷”プレゼント。

両先生に私の名刺を渡す。

更に以下のものをプレゼントする。

「校長先生からのメッセージ」「1年生からのメッセージ」「学校要覧」
「鳴海和彦線作成の折り鶴」「りんごんDVD」[命名式及び交流会DVD]
「飯田市のパンフ・龍江のパンフ・桜街道パンフ・命名式のうちわ」
「清水正明さん提供の写真・満開の桜街道の写真・竜峡中学校全景写真・
今田人形クラブ写真等」などをプレゼント。

プレゼントの中でも満開の桜街道の写真に生徒さんらが歓声をあげる。

この写真は準備してきてよかった。清水正明さんに感謝。

- 3、演劇部の生徒による“自由”をテーマにしたパフォーマンスを披露して
くれる。さすが自由の伝統のあるフランスだ。

その後、日本からの我々も含めたゲーム。市長・教育長・それに我々の団
員も加わりゲームに興ずる。

思いがけないゲームの展開に笑いも出てなごやかなひと時となる。

最後に全員で「日本通り」の名入りプレートの下で記念撮影。

ハイ・ポーズ。

先生から返事はどこに出したらよいか聞かれる。

市役所を通してと答える。

《姉妹都市委員会役員との交流》

- 1、15：30 から姉妹都市委員会の皆さんとの交流が予定されていたが、姉妹都
市委員会皆さんは見えなかった。

此方から持って行った今田人形の風呂敷及びパンフ類はシャルルヴィル・
メジェール市に預け、姉妹都市委員会の皆さんに差し上げて頂くよう依頼す
る。

これから18：30からの「日本の間」の開所式まで時間が有る。

《SVM市内観光》

- 1、皆でデュカール広場を訪れる。

レンガ色の建物に囲まれた綺麗な広場だ。

ヨーロッパには、どこに行ってもこう言う広場がある。

人々が集まり意見を交わす。交流する。商売もする。大陸続きで異民族と
の交流や交易などする場所として、なくてはならない場所なのかもしれな
い。

デュカール広場は約150m²の広場（2町歩ちょっと位）。20センチ²の石
が敷き詰められた石畳の広場で、周りを取り囲むように3階建ての石作りの
建物が立ち並ぶ。

この建物は 17 世紀の建物とのこと。

第 2 次世界大戦の折り、ナチスドイツに運良く破壊されなく生き残ったとのこと。

ナチスの侵攻に抵抗しなかったので、破壊されずに残った幸運にも支えられている。

また、東西南北に建物の丁度中央付近に道が出来ていて、人々はそこを歩いてデュカール広場に入る。

この建物の歴史から聞いた話によれば、4 と言うのはここでは縁起のいい数字とのこと。

聞いて建物を見れば、建物の最上階には、建物・建物に 4 つの個窓が有る。なるほど。

- 2、シャルルヴィル・メジエール市は 2 つの市と周りの幾つかの町が合併してできた市との事。

その合併本庁（シャルル市長舎）が、このデュカール広場の西側（？、方向が確認できなかった。）に有り建物の 2 階にはフランス国旗が何本か立てられていた。

シャルルヴィル・メジエール市は、9 月 20 日から 9 月 29 日まで、丁度国際人形劇フェスティバルが開かれていて、広場の中ほどに人形劇の舞台が、また、メリーゴーランドも据え付けられていて時々動いている。

- 3、小雨がやむと人々がどっと繰り出す。中央には丁度大道芸人のパフォーマンズで大勢の人だかりがしている。

見れば大人が多い。日本なら人形劇はどちらかと言えば子供対象と捉えられがちだが、ここでは大人も一緒になって楽しむ。

そんな文化が有る。

- 4、私と小川さんは、御饞別を頂いた 3 名（横田・吉澤・木下）の方々への土産を探して、広場の店を見て回る。

フェスティバルのグッズはあるが、置き物的で記念品になるようなものがなかなかない。

やっと見つけたが、これで満足していただくことにした。

〈シャルル市庁舎(合同庁舎)で「日本の間」開所式〉

- 1、18 : 30、デュカール広場のシャルル市合併本庁舎で「日本の間」の開所式に臨む。

ラビニオン市長（公務が終わり丁度到着する）・グレゴリさん・牧野市長・代田教育長・飯田市の関係者・フランスのシードル生産者の若者の男女・通訳のヴァンソン藤井さん・フランスの男性副市長・レリトー和子さん・

我々訪問団 15 名・フランス市のスタッフなど総勢 30 人位。

「日本の間」は障子を模したフランス人の方の作った大きめの障子のある、立て横 5m×10 メートルほどの会議室。

後ろの壁には天竜峡の写真が 2 つ、よこね田んぼ、飯田丘の上のリンゴ並木、下山から見た飯田の風景の写真が各 1 枚ずつ 5 枚飾られており。

その下にはガラスケースに入れられた水引（市長公室の様な）が、整然と形よく箒の様に飾られている。

後ろ左側には、飲み物等の準備がされており。

前には机に並べられた、シャルルヴィル・メジエール市と飯田市からの贈呈品・贈り物が置かれている。

- 2、中山多美子さんは、機転をきかせて頂いて着物を持参して頂き、この時着物で参加「日本の間」の開所式に花を添えていただいた。

やはり着物は日本人女性の素晴らしい文化だ。

更には、急きょ「生け花」も活けていただき、更に加えて花を添えていただいた。

なんとありがたいことか。

- 3、ラビニヨン市長の開所式と歓迎の挨拶。

続いて牧野市長の挨拶が有り。（その事については、小川さんの素晴らしい記録が有るので。）

全て、ヴァンソン藤井さんの通訳で進行していく。さすが慣れたもので手際が良い。

- (1)、私に番が廻って来た。

初めに、お土産として持っていた「龍江のハッピー」と「今田人形の風呂敷」

「命名式と交流会のDVD」を、まずSVM市に。

そしてラビニヨン市長御夫妻に「龍江のハッピー」「今田人形の風呂敷」「命名式と交流会のDVD」。

グレゴリーさんには「龍江のハッピー」それぞれプレゼントする。

続いて、龍江地域づくり委員会会長・飯田フランス協会会長のそれぞれの「親書」を交付する。

- (2)、ノートルダム寺院火災の見舞金を差し上げる。

ラビニヨン市長さんには、まさにサプライズで、突然の事で感激されていた。

桜祭りの折りに、機転が利いて提案した方に感謝。

金額（1万円）は少しであるが、気持ちと言う物はどこの人にも伝わる物と感じた。

困っているときにはお互い様だ。

国際親善には市民レベルでも大いに役立つ事が有るものだ。

(3)、西村先生からも、OIDE長姫高校のテックレンジャーの手書きのポスター（縦横 1.5×2メートル位）がプレゼントされる。

皆から、“ワー”と驚く声が聞こえる。

再来年、西村先生はSVM市の国際人形劇フェスティバルに子供達と来て、パフォーマンスを披露したいとのこと。

そのPRも兼ねていたプレゼントは大いに効果が有ったと思う。

先生達の成功を祈ろう。

（開所式の前、国際人形劇実行委員会の会長との話によれば、この会場でのパフォーマンスを演じる事の出来る人形劇団は、プロのみとの事。しかし、なんとか公演出来るようになってもらいたいものだ。帰ってラビニヨン市長にお願いの手紙を書いて頼み込めばきっと大丈夫と思う。）

(4)、清水議員からも個人的にラビニヨン市長にプレゼント。清水議員は昨年のラビニヨン市長訪問の折には、懇意になっているものと見えてラビニヨン市長も大変喜んでた。

(5)、知久さんからラビニヨン市長さんプレゼントされる。

(6)、続いて、代田教育長から立派な掛け軸がプレゼントされる。

雅号を持つ代田教育長は、立派な書をプレゼント。

書は「龍蛇、大澤に生ず」（龍蛇生大澤）と書かれており、立派な掛け軸になっている。

意味は、「龍や蛇のような勇敢な人物は、大きな川と谷のある大自然の中でこそ育まれる。」と言う意味だそうだ。

そして、色紙「愛」も贈られた。日本ではちょっと気恥かしいが、ここではそうは感じない。不思議なものだ。

漢字文化は東洋の誇るべき文化だ。改めてその良さを感じる事が出来た。

(7)、SVM市からのプレゼント有り。それぞれ持ち返る。

後藤さんにも頂いてくる。

4、開所式のセレモニーが終わる。シールドで乾杯。

地元も2人（若い男女）の生産者の挨拶有り。生産者の作ったシールドの紹介を受ける。

そのシールドによって全員で乾杯する。

それぞれにシールドを頂く。皆で開所式を祝う。

〈夕食〉

1、19:30、「chez トシ」で夕食。

「日本の間」の開所式を終えた我々は、夕食を頂くために市庁舎を出て全

員で「トシ」に向かう。

外はすっかり夕闇となっていた。広場の周りの建物には明かりがともって雨にぬれた石畳も照らす。空は真っ青だ。

なかなか幻想的で旅情を感じさせる。

「トシ」は市長舎から歩いていける距離で、数 100 メートルくらい離れている。

市庁舎を出て広場の方向に向かい、丁度左方向の道路に沿った 50 メートル位入った所に有る。皆で歩いて行く。

- 2、「トシ」は日本人の高橋トシカズ（40 歳位・飯田市山本出身）さんがやっているレストランで、SVM市で唯一の日本人のレストランで、開店当時SVM市で評判になったとのこと。

高橋さんはこのレストランに勤めていたが、2017年このレストランを買って店主となったもので、すっかりSVM市に溶け込んでいる。

遠いヨーロッパの地で地域となじんで頑張っている人を見ると素晴らしいと思う。

- 3、日本から送った、日本酒：喜久酒 20 パック持参。

SVM市に 5 パックと 15 パックを「トシ」に差しあげる。喜んで頂ければありがたい。

日本の、飯田の酒を知って頂き、その消費が増えればの目的であったが、今後に繋がれば有りがたい。

高橋さんには私の名刺を差し上げたので、連絡を頂ければありがたいが。

「トシ」には、ラビニョン市長・牧野市長・代田教育長・飯田市の職員の皆さん・通訳のヴァンソン藤井さん、レリトー和子さんと我々15名が参加。この料理がフランスに来て一番いいとの評判。

皆でおいしく頂く。

最後に牧野市長の一本締めが有り。

牧野市長から最後の最後を、私の所に締めの万歳の指名が来た。

私は「ここにいる皆さんのご健勝・ご多幸を祈り。またSVM市と飯田市の更なる発展を祈って」万歳をした。